



## GIS を活用した防災・減災：生きている歴史都市—京都とカイロ

開催日：2026年4月21日（火曜日）16時—17時30分

**背景：**毎年4月18日は「国際記念物遺跡の日」(IDMS)、通称「世界遺産の日」です。世界各地の歴史的建造物や遺跡の多様性を称え、それらを次世代へ守り伝える大切さを再確認する日として、1982年に文化遺産の保護に取り組む国際 NGO の ICOMOS（イコモス）によって採択されました。2026年は「紛争や災害時における生きた遺産への緊急対応」がテーマとなっており、この日を中心に、世界中で関連する講演会やイベントが行われ、自然災害、気候変動、都市化、紛争などの脅威が高まる中で、文化遺産を保護する必要性についての意識を高めるための国際的なプラットフォームを提供しています。

**目的：**歴史都市は本質的に生きた遺産です。これらの都市は、高密度な都市構造、歴史的建造物、そして複雑な社会・文化的背景を有しているため特に脆弱です。この点において、地理情報システム (GIS) は、災害リスクの特定、脆弱性評価、モニタリング並びに緊急対応のための確かな意思決定を支援する強力なツールを提供します。本ウェビナーは GIS を活用した防災・減災に焦点を当て、国際的に重要な生きた遺産都市である京都とカイロを事例として取り上げます。文化的・社会的・統治的背景が異なるにもかかわらず、両都市は地震、開発圧力、気候関連災害等、複数の災害リスクに直面しています。本ウェビナーでは、GIS が緊急対応、遺産管理、そして歴史的都市環境におけるレジリエンスの向上にどのように貢献できるかを考えます。

### 目標：

- 生きている歴史都市における DRR のための GIS の実践的活用方法を示す
- カイロと京都の比較を通じて、経験と教訓を共有する
- 遺産専門家間の学際的・国際的な知識交流を促す

### 対象者：

- 文化遺産専門家、サイトマネージャー、都市計画、工学、GIS 分野の専門家、研究者、学生など

### 発表者：

- ヤセル・エルシャイブ（エジプト）、カイロ大学教授（文化遺産・考古学における岩盤工学応用）
- 深見奈緒子（日本）、元日本学術振興会（JSPS）カイロ研究連絡センター長
- 矢野桂司（日本）、立命館大学人文学部教授、人文地理学会会長
- 大窪健之（日本）、立命館大学理工学部教授、イコモス
- 岡田保良（日本）、日本イコモス国内委員会委員長

プログラム（予定）：

16:00		司会 高橋暁、立命館大学
16:05		<b>ヤセル・エルシャイエブ博士:</b> カイロ大学 カイロ大学教授及び考古学・環境工学センターの副所長。フランスのナンシー鉱山学校にて博士号を取得。専門は古代遺跡の地盤工学的リスク評価。工学、デジタル記録化、文化遺産保存を横断する研究・実務に従事し、エジプト文化・自然遺産記録センター長やスキャン・ピラミッド・プロジェクト副代表などの要職を歴任。国際地すべりコンソーシアム（ICL）のメンバーとして、文化遺産サイトにおける防災・減災にも貢献。
16:25		<b>深見奈緒子博士:</b> 元日本学術振興会（JSPS）カイロ研究連絡センター長 異文化間研究協力および学術機関間連携を専門とする国際的な学術リーダー。日本学術振興会（JSPS）カイロ研究連絡センター所長を務め、日本、エジプト、そして中東地域全体における学術交流の強化において中心的な役割を果たす。在任中は、共同研究の推進、若手研究者の支援、学際的連携の発展に尽力。相互理解と知識共有に基づく持続可能な国際学術協力の促進に貢献。
16:45		<b>矢野桂司博士,</b> 立命館大学 文学部教授、人文地理学会会長 立命館大学教授、都市文化遺産防災研究拠点（DMUCH）の中心的メンバー。専門分野は都市地理学、地理情報システム（GIS）、デジタル・ヒューマニティーズ及び歴史都市における防災・減災。空間分析および地理空間技術を文化遺産管理に応用する先駆的研究を行い、エビデンスに基づく計画策定やレジリエンス戦略の構築に貢献。学際的な連携を通じて、自然災害から都市文化景観を守るための革新的手法を開発し、技術、遺産研究、都市政策を結びつける持続可能な保全アプローチを推進。
17:05		<b>大窪健之博士,</b> 立命館大学理工学部教授、ICOMOS 立命館大学教授、ICOMOS（国際記念物遺跡会議）の理事を務め、世界的な遺産ガバナンスおよび文化遺産保存政策に貢献。立命館大学におけるユネスコチェア・プログラム「文化遺産とリスクマネジメント」の推進において中心的な役割を果たし、国際共同研究や文化遺産の防災に関する国際研修コースの発展に尽力。専門分野は歴史的都市景観、レジリエンス計画、持続可能な保存戦略。研究・助言活動・国際的な連携を通じて、科学的手法、地域社会の参加、国際基準の統合を推進し、自然災害および人為的リスクから文化遺産を守る取り組みを促進。
17:25		総括及び閉会、岡田保良 ICOMOS 日本国内委員会会長

